



量を感じる力

校長 福住 淳巳

梅雨の晴れ間に、中山間事業の皆さんにお世話になり、ジャガイモを収穫しました。地域の皆様には畑の管理や収穫の手助けなど、多くのご支援をいただきました。子どもたちがこのような体験を安心して行えるのも、日頃から学校を支えてくださる地域の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

今年もたくさんのジャガイモが土の中から顔を出し、子どもたちは「あった」「大きい」と声を上げながら、一つ一つ丁寧に掘り出し、収穫していきました。収穫の喜びを味わうだけでなく、土に触れ、作物の成長を実感できる貴重な学習の機会となりました。

収穫したジャガイモは、4つの品種をそれぞれ一袋ずつ家庭に持ち帰りました。それでもまだたくさんあります。そこで2回目は、一袋が約1kgになるように詰めることに挑戦しました。子どもたちは、手に取って「これくらいかな」と考えながら袋に入れ、最後に量りで確かめます。しかし、多かったり、少なかったりと、「ちょうど1kg」というのは思っていた以上に難しいです。普段から1kgという言葉は知っていても、実際に手で持って「これが1kgくらいだ」と感じることは、意外に少ないものです。何度も繰り返すうちに、「このくらいの重さなんだ」という感覚が少しずつ身に付いていくのだと思います。

学校では、算数で長さや重さ、かさ、時間など、さまざまな「量」について学習します。しかし、単位や計算を覚えるだけでは、本当の意味で量を理解したことにはなりません。「1mはこれくらい」「10mは校舎のここからここまで」「1kgはこれくらいの重さ」といった実感を伴った学びがあってこそ、生活の中で生きる知識となります。実際に、子どもたちは長さや距離についても、想像しにくい、どれくらいか分からないと感ずることがあります。これは決して珍しいことではありません。だからこそ、日常生活の中で「量感」を育てる経験がとても大切になります。ご家庭でも、ぜひ身近な場面で、量について話題にしていいただければと思います。例えば買い物をするときに「これは1kgくらいあるかな」と予想してみたり、料理で材料を量ったり、「学校まで何mくらいあるかな」「公園まで歩くと何分くらいかな」と話したりするだけでも、子どもたちの感覚は少しずつ育っていきます。予想し、実際に確かめる経験を繰り返すことで、量に対する見方や考え方がより豊かになっていきます。

ジャガイモの袋詰めは、単なる収穫後の作業ではなく、「量を感じる力」を育てる大切な学習でもありました。体験を通して学んだことは、貴重な学びとなります。これからも地域の皆様のお力をお借りしながら、子どもたちが実感を伴って学べる教育活動を大切にしていまいります。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<じゃがいも収穫>



<田植え>



< 7月/8月の主な行事：変更となる場合もあります >

7月の主な行事					
6	月	児童生徒を守り育てる日	13	月	自然の家・修学旅行 事前健康診断
		東予教育事務所・市教委合同学校訪問	14	火	交通安全教室
7	火	P T A役員会 19:00	15	水	田野小学校と交流学习
10	金	第1学期 個別懇談	17	金	第1学期終業式
12	日	クリーン田滝	8月の主な行事		
		愛校作業・古紙回収 8:00～	15	土	田滝地区盆踊り大会

～ 6月のアルバム ～

<水泳学習がスタートしました：浮く、泳ぐを頑張っています！>



<人権・同和教育参観日>

保護者の皆様、地域の皆様、授業を参観いただきありがとうございました。正しいと考える、感じることをどのように表せばよいのか、一人一人が考える時間になりました。



～ 夏休みに向けて ～

まもなく子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。40日間を越える夏休みです。学習に遊びに楽しく安全に過ごしてもらえればと思います。家族の一員として、家庭に貢献する何かを継続的に行うことも取り入れてください。



西条市教育委員会では、教職員が確実に休暇を取得できる環境づくりを推進するため、夏季休業中に学校閉庁日を設定します。本校は教職員数が少なく、一人当たりの当直に入る日数が多くなるため、他校に比べて学校閉庁日を多く設定し、休暇を取りやすくしています。